

(別記)

東栄町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

東栄町は、木曾山系の南端に位置する中山間地域で天竜水系の大千瀬川とその支流流域の緩急傾斜地に多くの耕作地が散在している。そのため経営規模が1ha未満の農家が98%を占め、農業外に所得を求める第二種兼業農家が主体となっている。

水稻の作付については、水田面積129haに対し、水稻作付面積は約13haにとどまり、その多くは自家消費を目的としたものである。さらに、少子高齢化に伴う担い手不足により農地の保全に支障をきたしているため、年々主食用米の作付面積は減少し、耕作できない農家が増加している。このため、水稻作付面積の維持が課題となっている。

転作はトマト類や山菜等が作付され、産地直売所での販売が中心となっているが、参加農家の高齢化が進んでおり、今後の課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

自家消費米の作付を中心とし、中山間地域等直接支払制度により協定を結んでいる集落の農家や集落営農組織を担い手と位置付け、作付面積の維持を図る。

(2) 大豆

地域の需要に応じて作付や生産体制を検討し、当面は現状の栽培面積を維持する。

(3) そば

地域の実需者との契約に基づく栽培ほか、JAの受託部会による栽培も地域農家の意向があれば検討し、現行の栽培面積を維持する。

(4) 高収益作物（野菜等）

「トマト」「ミニトマト」「山菜」「その他野菜（リスト別添）」「果樹」「花き・花木（リスト別添）」を振興品目として拡大する。特に山菜については、東栄町、商工会等が進める「とうえい山菜王国プロジェクト」により水田への転作に向け研究を進めており、販売・消費経路の確立をする。そのため、農家の転作を促すと共に意欲の増進を図る。

また、「果樹」「花き・花木」については地域の需要に応じて作付や生産体制を検討し、当面は現状の栽培面積を維持する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成29年度の作付面積 (ha)	平成30年度の作付予定面積 (ha)	平成32年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	13.0	12.5	12.0
飼料用米	—	—	—
米粉用米	—	—	—

新市場開拓用米	—	—	—
WCS用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	—	—	—
麦	—	—	—
大豆	0.1	0.1	0.1
飼料作物	—	—	—
そば	0.1	0.1	0.1
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	4.1	4.6	4.9
野菜・山菜	3.0	3.3	3.6
・トマト類	0.3	0.4	0.4
・山菜	1.0	1.1	1.2
・その他野菜	1.7	1.8	2.0
果樹	0.7	0.8	0.8
花き・花木	0.4	0.5	0.5

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	トマト、ミニトマト	地域振興作物（トマト類）に対する用途	取組面積	(29年度) 5.2 a	(32年度) 6.0 a
2	山菜類	地域振興作物（山菜類）に対する用途	取組面積	(29年度) 39.0 a	(32年度) 47.0 a
3	野菜、果樹 花き・花木	地域振興作物（野菜等）に対する用途	取組面積（野菜） （果樹） （花き・花木） （計）	(29年度) 48.0a 0.0a 0.0a 48.0 a	(32年度) 56.0a 3.0a 10.0a 69.0a

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり